

2015年7月発行 No. 105

発行者 西島啓喜 編集者 西島啓喜

発行所 〒080-0809 帯広市東9条南8丁目1-3

帯広バプテスト・キリスト教会内

http://hokkaidobap.jimdo.com pw:jbc1947

巻頭言

「協力伝道とは？ 受けること？ 与えること？」

北海道バプテスト連合 会長 西島 啓喜（帯広教会）

「兄弟たち、マケドニア州の諸教会に与えられた神の恵みについて知らせましょう。彼らは苦しみによる激しい試練を受けていたのに、その満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、人に惜しまず施す豊かさとなったということです。わたしは証ししますが、彼らは力に応じて、また力以上に、自分から進んで、聖なる者たちを助けるための慈善の業と奉仕に参加させてほしいと、しきりにわたしたちに願い出たのです」
（コリントⅡ 8：1-4）

定例の地方連合連絡協議会の折、懇談の中で「伝道所が教会組織をし、連盟に加入することはセットなのだろうか」という問がなされた。今まであまりにも当然のことと考えていたので新鮮な問いだった。

伝道所も教会も働きとしては全く同じものであるが、伝道所が教会組織するという事は、経済的にも運営面でも母教会を離れ独立した存在になるという「自覚的な決断」をすることである。

では「連盟に加入する」ということはどうか？これも通常「教会組織決議」と「連盟加入決議」とがセットになっているので一連のものと考えがちだが、実は当たり前ではないのだ、ということを確認させられた。教会組織しても必ずしも連盟に加入する義務はないのである（原理的には）。では、なぜ連盟に加入するのか？そのキーワードが「協力伝道」ということである。連盟に加入するということは「協力伝道に参加する、という自覚的な決断の表明」ということである。つまり、しなくても良いかも知れない犠牲をあえて差し出す決断をした、ということである。（連盟について言えることは連合についても同じように言える）

この理解が私の頭からはすっかり抜け落ちていた。私の中には連盟（事務所）は、いろいろな情報の提供者、回転資金の提供者、研修会の講師の派遣者・・・様々なサービスの提供者であり、連盟に加入することはそうしたサービスを受けられる資格を得ることのように（無自覚的に）受け取っていたことに気が付かされた。

改めて自分の心の奥を覗くと、私の判断基準は「自分にとってメリットがあるかどうか」がベースになっているこ

とを告白せざるを得ない。格好つけて「教会のため」とか「隣人のため」とか言っている、つきつめると自分のメリットになっているかどうか、が判断基準になっている。結局は言葉では否定している「自己中心性」を行動では「自己中心」で行っているのである。

昨今、連盟の協力伝道献金が目標に未達なのは「教会員の高齢化」とか「教会員の収入減」とかの理由と説明されるが、この「協力伝道に参加する」決断をした、という自覚が薄れていることにはないだろうか、と常々思わされている。連盟総会でも堂々と「うちも標準比率擧げてないですけどね・・・」と発言される代議員がいて気持ちが萎える。教会の現状を見る時にも全く同じ感想を持つ。教会には、私も含め「受けよう、受けよう」という人々があふれている。しかし「与えよう」とする人は少ない。聖書の（イエスの）最も根幹の教えが実現されていないのである。100人が皆、愛を求めても誰一人愛は得られない。けれども一人一人が少しの愛（例えば1%）を出し合えば一人分の愛になるかも知れない。

しかし協力伝道は一方向的に与えるのでも受けるのでもない。「満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、人に惜しまず施す豊かさとなった」。与えることが豊かに受けることになる。これはパウロが、試練と極貧の中にあつたマケドニアの教会から学んだ真理である。ご自身をさえ捧げられたイエスの教え・生き方を正面から受け止め、「極度の貧しさがあふれ出」ることを指向するとき、自分が、教会が、連合が、連盟が、世界が変わって行くことだろう。豊かに与え豊かに受ける愛の共同体が実現するであろう。

●新たな四半世紀に向かって

2015年6月28日(日)、オープン・ドア・チャペル25周年記念行事を行なうことができました。北海道バプテスト連合諸教会のお祈りとご支援に心より感謝申し上げます。

25周年記念行事の目的として、第一に、オープン・ドア・チャペルの25年間の歩みを守り導いてくださった神様に感謝と賛美をささげること、第二に、先代の働き人の労苦を覚えて感謝するときとすること、第三に、現在オープン・ドア・チャペルにいる私たちがその始まりと歴史を知ることによって、神様の導きと恵みをしっかりと受け止め、教会として、個人として、将来に向けてどう歩むかを考えてみるときとすることでした。

25周年記念行事を行なうにあたって、私たちはホエリー宣教師夫妻と富田師夫妻の出席を強く願いました。しかしながら、残念なことに、ホエリー宣教師ご夫妻は長旅に耐える体調ではないという理由で、招待を辞退されました。ですから、何としても、富田師ご夫妻にはお二人そろって出席していただかなければと思い、ご高齢なお二人のために主が健康と体調を支えてくださるように私たちは熱心に祈り続けました。そして、6月26日(金)、富田師ご夫妻を迎えに新千歳空港へと向かいました。到着ロビーで待っていると、富田師ご夫妻がお二人そろってさっそうと歩いて来るのが見えました。富田夫人の体調が気になっていたのですが、何の問題もなく、再び北の大地を踏むことができましたのです。

6月28日(日)の25周年記念礼拝においては、日本に来ることのできなかつたホエリー宣教師ご夫妻も、アメリカにいながらにして礼拝に参加することができました。スカイプによって、ともに主に賛美をささげ、主を礼拝することができたのです。トム&キャロル・ホエリー師からのお祝いの言葉と将来に向けたオープン・ドア・チャペルへの夢が語られました。続いて、キャロル・ホエリー師が子

オープン・ドア・チャペル牧師 佐々木俊一

どもたちに向けて日本語でメッセージをしてくださいました。大きな神様の大きな愛について語られました。宣教は、富田敬二師によって語られました。「教会は幻を語り夢を見る」と題して、使徒の働き2:17~18をとおして語られました。89歳とは思えないほど、45分間立ちっぱなしで熱くメッセージを語られました。そして、オープン・ドア・チャペルは、福音伝道と新たな教会を生み出すことへのチャレンジを受けました。

午後二時からの祝会においては、札幌市内や近郊の教会から18名の方々がお集まりくださいました。この日は日曜日でしたので、各教会の予定がありますから、お祈りをさせていただくだけでも感謝なことだと思っておりました。お忙しい中、ご出席いただいたこと、本当に感謝いたします。祝会においては、「出エジプト オープン・ドア・チャペル編」と題して、スライドを見ながらオープン・ドア・チャペルの25年間を振り返り、神様の恵みに感謝することができました。

オープン・ドア・チャペルは、これからの四半世紀に向かって、思いを新たにされて共に主に仕えて行きたいと願っています。今後ともよろしくお願いたします。

北海道バプテスト連合の働きと諸教会の働きの上に、ますます主のご栄光が豊かに現されますようにお祈りします。



●札幌教会の副牧師に就任しました



主の御名を讃美いたします。

今年の3月に西南神学部を卒業し、4月より札幌バプテスト教会の副牧師に就任いたしました杉山望と申します。昨年の3月、神学生のときに結婚し、連れ合いの佳南子と2人で北海道にやってきました。これまで暮らしてきた最北の土地は、私が埼玉県、

札幌バプテスト教会・副牧師 杉山 望

佳南子が群馬県でしたので、北国・北海道での生活は初めてのことがたくさんあります。店に並び食材も、気候も異なり、何を食べようか、何を着ようかと戸惑いながら、導かれた地での歩みを始めています。

神学生のときにルワンダ、韓国、沖縄へ行く機会を与えられたこともあり、在学中は「和解」をテーマに学びました。その学びを通して、私たちを悔い改めに導き、和解をもたらす

方は主イエス・キリストであることを再発見しました。分断の広がる社会にあって、和解の務めに仕えてまいります。

北海道地方連合は、交わりに積極的な連合と聞いています。私の出身の北関東地方連合も交わりと協力伝道が盛んでした。私自身、連合の青年伝道隊や教会間の相互訪問などに参加し、

信仰を育てられ、教会での働きに仕えることへの励ましをいただきました。札幌教会の働きだけでなく、連合での交わり・協力伝道の働きにも加わっていきたくて、北海道の教会が共に強められることを願っています。どうぞよろしく願いいたします。

●北海道連合女性信徒の会道東ブロック修養会報告 「アイヌモシリに生きる」

旭川東光教会 松坂有佳子

去る7月3(金)～4日(土)、道東ブロックの4つの教会より20名の女性たちが集まり(他にゲスト、協力5名、子ども4名参加)、旭川東光教会を会場にブロック修養会を行いました。4月の連合総会に旭川教会から提案された『「開拓」という言葉に関する提案』が出されたことと、それに対する役員会からの応答の中に、今後「模索する機会をいろいろな場で行う」とあったことから、アイヌ民族の歴史について学ぶ機会にしたいと考えました。聖公会の司祭広谷和文氏をお迎えし講演「アイヌモシリに生きる」を聞き、さらに知里幸恵の記念資料館やアイヌ墓地を見学する現場研修も行いました。

広谷先生は、50年以上にわたりアイヌ民族との親睦を深めると共に、その歴史、言語、文化に学び、その権利回復のために尽力してこられた方です。先生は「北海道は日本ではない」と断言され、「アイヌモシリ(人間の静かな大地)」に暮らしているということを意識化し、その事実に向かい合いたいと言われました。そして倭人(日本)による耳を疑いたくなるような謀略や搾取によって進められた侵略の歴史をわかりやすく教えてくださいました。それはつまり「開拓」という言葉で進めら

れた倭人による北海道侵略の歴史です。先達のスピリットと表す言葉として誇りを持って使ってきた「開拓伝道」という言葉も、立場や見方を変えると全く違った意味として響くということがよくわかりました。

今回の学びをどう捉えるのか、わたしたちの修養会では十分なディスカッションができたわけではありませんし、向き合うべき事実が明確になったことで返って混乱していることもあるかと思っています。ただ、わたしたちが福音をどう捉えるのかという協力伝道の根幹として、丁寧に議論をしていきたいと感じています。



●北海道連合女性信徒の会・道央ブロック集会を終えて 西野バプテスト教会 亀谷純子

去る7月16日、私たちの西野バプテスト教会を会場に女性信徒の会道央ブロック集会を開催しました。働き手の少ない弱小教会なので正直どうすればいいのか初めは戸惑いましたが、背伸びをせず普段の私たちを見ていただくという事になり、第1部・礼拝形式、第2部・聖書楽講座(祈禱会)の2部構成で行うことになりました。

当日は夏らしい爽やかな天候に恵まれ道央の8教会(都合により1教会欠席)から19名の女性が集まり、牧師と男性1名も加わって讃美やメッセージを共に分かち合い心を一つにして祈ることができました。

聖書楽講座の質疑応答の時間には賛否両論いろいろな意見による活発なディスカッションが行われ、自分とは異なる様々な考えに触れたり、同じ意見に共感したりできた事は私にとってとてもいい経験になったと思います。

軽食やお菓子をいただきながらの交流の時、最後に李会長から女性会のアピールがあり祈りのうちに集会を終える事ができたことを感謝いたします。

尚、第1部のなかでささげられた献金15,650円は世界祈禱週間のために献金させていただいたことをご報告いたします。お祈りありがとうございました。



●釧路教会、新たな出発へ

7月20日、釧路教会は奥村敏夫牧師就任感謝礼拝を捧げた。全道、全国、テキサスより祝福を携えて120名ほどが出席した。当日は連合有志による合同聖歌隊、平良仁志牧師（堺教会）による説教、祝辞、家族紹介の後、祝会で就任をお祝いした。

4年間の無牧師の間に新会堂を建築し、大雪の日には一人で礼拝を守る時もあった釧路教会にとって、奥村牧師の就任式は誰よりも喜びに満ち溢れる時となった。



「釧路教会からのお礼」

主の御名を崇めます。

7月20日には各地から120名程の方々が出席いただいて、無事に奥村牧師の就任式を終えることが出来ました。

遠方から駆けつけて下さった方々、様々な形で祝意を伝えて下さった方々に教会員一同心よりお礼申し上げます。永い無牧師の間、この群れを覚えて祈り支えて下さった方々に

直接お会い出来、大きな大きな又励ましを頂きました。

この力をエネルギーに、教会形成と伝道に励んでいきたいと願っています。他の牧師教会のことも覚えて祈り協力して参ります。本当にありがとうございました。皆さんの教会の上に主の豊かな祝福が有りますよう祈ります。在主

釧路キリスト教会牧師 奥村敏夫
教会員一同

●いよいよ改修工事着工

まず、改修工事に際しましては、全道の緒教会はじめ、全国の緒教会の皆様からのご支援に感謝しなければなりません。あらためて感謝申し上げる次第でございます。

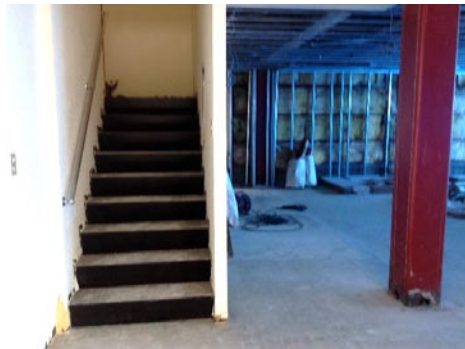
そして、いよいよ2015年5月、改修工事が着工し工期は約3ヵ月の予定です。当初、工事は緒集会をしながらでも可能だと云われておりました。ところが直前になって「それでは工事をスムーズに行うことは出来ないの、全部明け渡してほしい。」との申し出があり、緊急会議を開き、1-2階の物はすべて片付けて明け渡すことに決定しました。さらに3ヵ月間、どこで集会を持つのかという問題が起こり、祈っており

平岸バプテスト教会

ましたところ、執事の方から「自分の会社の事務所を使っても良い」との申し出があり、しかも全くの好条件であったので、異論があるはずもなく、この事務所を、お借りすることになりました。その間あまりにも急であったので片付けから引越しに至る作業は大変なもので、前日の土曜日には、へとへとになり、新しい会場での礼拝には何人来られるか心配でしたが、いつものメンバーが顔を見せてくれ、ほっと胸をなで下ろしました。一方、工事のほうも連日好天にも恵まれ順調に進んでおり、完成が待たれます。



完成模型



工事開始



仮会堂での礼拝